

抗うつ薬 脳梗塞にも効く？

抗うつ薬として使われてきた薬が、脳梗塞やアルツハイマー病などの治療にも役立つ可能性があるとして、大阪大の工藤喬教授と大阪府立急性期・総合医療センターの近江翼医師らが発表した。動物実験によ

る成果で、論文が科学誌「セル・デス・アンド・ディジェーズ」に掲載された。

うつ病になると、脳内物質セロトニンの働きが弱くなることが知られている。国内ではその働きを強める抗うつ薬「フルボ

阪大教授ら

キサミン」が1999年から使われている。

工藤教授らは、脳の血管をふさいで脳梗塞を発症させたマウスに、この薬を投与し、脳細胞が死滅する範囲が3分の2程度に抑えられ、症状が軽くなったことを確認した。

また、ヒトの培養細胞に薬剤などで強いストレスを加えた後

にこの薬を投与し、細胞の死滅を防ぐたんぱく質が増えることも突き止めた。ストレスを受けた細胞が死滅して発症する病気にはアルツハイマー病やパーキンソン病などがある。

工藤教授は「副作用の出方がよくわかっている薬なので、他の病気にも使えれば、用途が広がる」としている。